



# 兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

## 第三十号

平成十八年三月一日発行

兵庫教育大学大学院  
同窓会 広報部

## 兵庫教育大学は今、 改革のさなかにあります

兵庫教育大学 理事・副学長 勝野 眞 吾

兵庫教育大学は今、大きく変わろう  
としています。大学の改革は「教職大  
学院」という新しい仕組みの創設に代  
表されます。



「教職大学院」は、学校教育の実践  
現場で高度の資質・能力を発揮する教  
員の養成に特化した「専門職大学院」  
です。本学の「教職大学院」は、修士  
課程の学校教育研究科内に新しく「高  
度教育実践」専攻として設置され、  
「学校指導職コース」、「授業実践リ  
ーダーコース」、「心の教育実践コース」、  
「小学校教員養成特別コース」の4コ  
ースで構成されます。「学校指導職コ  
ース」は、学校を自律的に運営できる  
高度な専門性を持ち、特色ある学校づ  
くりを進める指導力を備えた学校経営  
専門職やそれを支援する指導力を備え  
た教育行政専門職の養成を行います。

「授業実践リーダーコース」は、学校  
現場において、自ら優れた実践的指導  
力を備え同僚や若年教員に対して指導  
的役割を果たし得るメンター教員、積  
極的に実践改革を行うことができる教  
員を養成します。「心の教育実践コ  
ース」は、道徳教育、進路指導、生徒指  
導・教育相談および学級経営など、い  
わゆる教科外教育として位置づけられ  
ている分野の教育活動、学校・家庭・  
地域の連携のもとでの地域教育活動、  
さらには家庭教育への支援活動を包括  
した心の教育の開発・実践指導におい  
てリーダーシップを発揮する心の教育  
実践スペシャリストの育成を行いま  
す。「小学校教員養成特別コース」は、  
中学校・高等学校等教員免許状取得者  
や教員免許状を持たないストリート学  
生、社会人を受け入れ、小学校教員第  
一種免許状を取得させるとともに実践  
的な指導力・展開力を備えた小学校教  
員を養成します。

「教職大学院」では修士論文を書く  
必要はなく、事例研究報告等がそれに  
代わります。また、学校現場での実習  
を重視し、アクション・リサーチなど  
院生、教員が学校の教員と協働して行  
う学校現場の課題の解決がカリキュラ  
ムに組み込まれます。

本学は平成19年4月開設を目指して  
「教職大学院」の準備を進めています。  
受け入れ人数は100名、我が国で最  
も規模の大きいものとなります。「教  
職大学院」では指導教員の4割を実務  
家教員とすることとなり、新た  
な教員人事を進めています。その中  
には本学大学院を修了された方が何人  
か含まれています。「教職大学院」に  
は、新構想大学として発足した本学の  
歴史が脈々と流れています。

「教職大学院」創設への準備と並行  
して、既設の修士課程、学部改革を  
進めており、そのなかで学部・大学院  
を連携した6年間一環の教員養成シス  
テムの検討を始めています。また、研  
究組織と教育組織を分離して、研究と  
教育が機能的に行われるように改革を  
進めています。

このように兵庫教育大学は今、総合  
的な大学改革のさなかにあります。改  
革の様子は同窓会会報、Hyokyo-net、  
ホームページなど様々なルートを通じ  
て同窓会の皆様にお伝えいたします。  
本学の改革に対するご理解、ご支援を  
賜りますようお願いいたします。

# スクールリーダーの育成と

## 兵庫教育大学

学長特別補佐、現職教員・同窓会担当 加治佐 哲也

### 1. スクールリーダーの計画的養成の必要性

学校という組織の運営にとって校長をはじめとする学校指導者（スクールリーダー）の果たす役割はきわめて大きい。学校経営改革の進行によってその役割はさらに重みを増している。それは、「自主的・自律的な学校経営」と「開かれた学校」をつくることによつて、「特色ある学校」をめざす改革である。

特色ある学校づくりは、これまでの、教育委員会の指示・命令のもとでの「中間管理職」的な学校運営の能力では果たせない。主体的で柔軟な学校改善者としての経営能力・力量やリーダーシップが求められている。学校指導者には、自律した特色ある学校経営活動を創造・展開できる高度の能力や専門性が必要とされるようになったので

あり、それは高度専門職といえることができる。

しかしながら、わが国では、学校指導者は、独自の免許が制度化されていないのみならず、意識的・計画的に養成されることもなかった。これからの学校指導者は教職や教育行政職の単なる延長線上にあるのではない。学校指導者としての高度の専門的力量形成を長期の教職ないし教育行政職経験のみに依存することには明らかに無理がある。学校指導者としての力量をトータルにまた確実に育成するためには、それを計画的・継続的に育成することが必要となる。

### 2. 兵庫教育大学におけるスクールリーダー養成の取り組み

兵庫教育大学は、こうした要請にいち早く対応している。すなわち、大学

院学校教育専攻・教育経営コースを、平成17年度より「スクールリーダーコース」に改編して、学校指導者養成に特化した教育活動をすでに展開している。

スクールリーダーコースでは、次のような力量の育成がめざされる。①学校の教育・学習活動を改善するとともに、教職員の職能成長を促す教育的リーダーシップ、②教育組織としての学校のヴィジョンを創造する能力とそれを教職員と共有するためのコミュニケーション能力、③危機管理能力など、学校組織を安全に、効率的・効果的に運営する学校マネジメント能力、④保護者・地域社会との連携を構築する開かれた学校づくり能力。

そのためのカリキュラムは、「学校組織マネジメント・学校自己評価」、「学校危機管理」、「教育行財政・法制」、「カリキュラムマネジメント」、「学校ヴィジョン・目標構築」、「開かれた学校づくり」、「教職員職能開発」の授業科目から構成され、事例研究やプレゼンテーションなどを用いた実践的・双方向な授業が行われている。現場実習も行う学校経営インターシップ・セ

ミナー（学校経営フィールドワーク・セミナー）が課題研究として設けられ、修士論文に替えて現任校の学校経営改善計画を作成する。

指導スタッフは、これまでの研究者教員に加えて、校長や指導主事等の経験を有する実務家教員を採用し、複数教員によるチームティーチングがすべての授業で行われている。

平成17年度の入学者は、すべて現職教員であり、兵庫県から県立学校教頭名簿登載者5人、鳥取県から3人、奈良県、岡山県、福岡県、鹿児島県から各1人の計12人であった。兵庫県と鳥取県からの入学者は県教育委員会による「指名」である。

また、現職管理職の研修にも取り組んでいる。平成16年度から、兵庫県教育委員会と連携して、兵庫県内公立の小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校のすべての新任教頭と新任指導主事を対象とした研修事業（「学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）」を兵庫教育大学において実施している。それは10日間に及ぶものであり、プログラム内容や研修方法

は両者が共同開発した。1日は5コマ(1コマ90分)から構成され、講義のみでなく、演習・実習が多く行われる。神戸市立学校の新任・2年次等の校長および教頭の研修事業においても、平成16年度より、神戸市教育委員会と連携してそのいくつかを開発・実施している。

兵庫教育大学における学校指導者養成は、こうした実績をもとに、さらに拡充した形で、平成19年度設置をめざして準備を進めている教職大学院高度教育実践専攻の「学校指導職コース」に引き継がれることになっている。

### 3. 教職大学院「学校指導職コース」の特色

学校指導職コースには、「学校経営専門職分野」と「教育行政専門職分野」が置かれ、前者は校長、教頭の候補者、ならびに中堅層以上の教員、後者は指導主事、管理主事等の教育委員会の専門職員およびその候補者が対象である。入学定員は両分野を合わせて20人を予定している。

学校指導職コースでは、スクールリ

ーダーコースのカリキュラムをさらに充実させて、次のような特色ある教育活動が行われる。

①講義を通じて理論や原理を習得させるとともに、演習・実習によって事例に触れ、あわせて実務的なトレーニングを行うことにより、理論と実践の融合が図られる。

②カリキュラムは研究者と実務家との協働で編成する。またすべての授業科目で研究者と実務家との協力教授を行う。

③学生の選考やカリキュラム・授業(とくにインターシッポ)の編成・実施など、コース運営のすべてにおいて、教育委員会・学校と連携する。

④教員と学生、および学生間の双方向的なコミュニケーションとプレゼンテーションを中心とした授業を展開する。

⑤すべての授業において、同期の入学生による少人数の学習集団(コーホート)をつくり、2年間常に学習を共にすることにより、相互の教育効果を高め、修了後のネットワーク形成につなげる。

## 岐阜県兵庫教育大学大学院同窓会

(会長 中根弘之 中津川市立蛭川小学校長)

### の近況報告

岐阜県の兵庫教育大学大学院同窓会は、上越教育大学と鳴門教育大学の大学院修了生と合同で「岐阜いちい会」という名前で活動をしています。

「いちい」とは「いちいがし」ともいい、ブナ科の常緑高木で暖地に自生し、高さ30メートルに達する木です。材は堅く、建築・家具などに用いられ、山の国岐阜県の県木となっています。

その「いちい」の木が生長することく、岐阜県教育の発展を期して「いちい会」と名付けられました。

現在、会員は兵庫、上越、鳴門をあわせ、200余名に達しています。

会の活動としては、岐阜県内の六つの地域、「岐阜地区」「西濃地区」「可茂地区」「東濃地区」「飛騨地区」それぞれに支部を持っています。

各支部でも、各員相互の研修と親睦を深めるため、活発に活動しています。

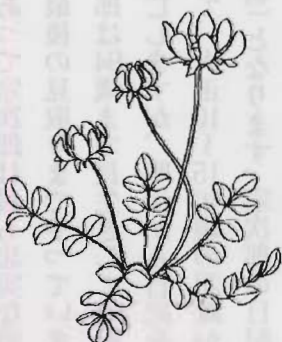
創設期に各大学院で学んだ会員の多

くが今では管理職となり、岐阜県教育の第一線で活躍している者がほとんどであり、大学院で学び、研究したことを実践の基礎として頑張っています。

今後は、会員間の交流、親睦をさらに深め、課題の多い今日の教育界に確かな貢献ができるよう日々研鑽に励んでいこうと思っています。

文責 第4期 自然系地学

岐阜県立八百津高等学校長 川合康司



# 講演 「宮沢賢治と斉藤宗次郎」(要旨)

前国際日本文化研究センター所長

山折哲雄氏



私の花巻における実家は浄土真宗の末寺で、近くに宮沢賢治の生家があり、賢治のご家族とは日常的な交流がありました。寺の門前の洋服店の女将さんは賢治の一番下の妹さんで、息子さん達とは学校の遊び友達でありました。もともと私は昭和6年に花巻に来たので、賢治が亡くなったのは昭和8年(1933)ですから、生前の賢治のこととは知りません。しかし、母から賢治の逸話をよく聞きました。

宮沢賢治は典型的な日本人でありま

す。盛岡中学時代はプロテスタントの教師に習い、カトリックの神父とも交際しています。中学生ですから、キリスト教を研究をしようとしたのではなくて、キリスト教を通して西洋文明に近づこうとしたのです。やがて、中学を卒業し盛岡高等農林専門学校に進学。日蓮宗に親しむようになります。

盛岡には名刹・願成寺があり、明治維新のときの西本願寺の学僧の一人に嶋路黙雷という山口県出身の政教分離を唱えた住職がいますが、その養子・嶋路大東は東京大学教授でもあり、夏場は花巻で過ごしています。その嶋路大東に勧められて、賢治は東京に出ることにになります。父・政次郎は賢治の身体が弱いのを心配して止めるのですが、賢治は振り切って東京に出てしまいました。東京で、田中智学という人物の影響を受けて辻説法までやっています。しかし、挫折をし、ほとんど父・政次郎さんに連れ戻される格好で花巻に戻ってきます。

賢治が花巻に戻った頃、一人のキリスト教徒が新聞配達業をしていました。花巻郊外の曹洞宗の寺に生まれ、家庭の事情で斉藤家に養子に行った斉藤宗次郎という人物です。斉藤宗次郎はこれまでの賢治研究には出てきませんでした。斉藤宗次郎は若手師範卒業後、小学校の教師となります。賢治が小学生の頃です。たまたま内村鑑三の文を読み、影響を受けてキリスト教徒になります。

内村鑑三は当時、東京で「世論叢報」という新聞の主筆をしており、「日清戦争は正義の戦いだ、日露戦争はそうではない」と非戦論を展開し、兵役拒否・納税拒否をするとまで主張していました。それに刺激されて斉藤宗次郎は小学校の教壇で内村の教えを説くことになるのです。それを聞き内村は、急遽花巻にやって来ます。そして、宗次郎に教育の意味「思想は思想。信仰は信仰」と順々と説いて戒めます。明治37年12月のことでした。しかし、時既に遅し。斉藤は辞職に追い込まれました。無職となった宗次郎はやがて新聞配達業をすることになります。宮沢賢治と交流が始まったのは大正10年の頃です。大正15年頃、東京に出た斉藤宗次郎は内村鑑三の弟子となります。内村鑑

三には錚々たる面々の弟子がいますが、その中であって宗次郎は最も忠実な弟子として最後の見取りまでやっています。宗次郎は94歳まで長生きして昭和34年に死亡しますが、明治から日記を書いて、大正10〜15年頃の記録が「永訣の朝」となります。宗次郎の日記には、キリスト教徒であるにも係わらず宮沢賢治の世界に共感を示しています。賢治も何かのイベント実施の時には宗次郎を第一のゲストとして招いており、宗次郎のような人物になりたいと思っけていても不思議ではありません。

宮沢賢治はいろいろな職業や様々な生き方をした失敗者と評価する人もいます。しかし、賢治は可能性を手探りして生きようとはしました。現代は専門人第一主義で、社会は専門家を認めようとはしますが、宮沢賢治の場合はそうではありません。日本人の心が一般的に荒唐に貧しているとき、宮沢賢治の生き方は示唆的であり、全く異質の宗教的世界を生き抜いた宮沢賢治と斉藤宗次郎とが出会い、互いに尊敬する関係を築いた二人の生き方について、学ぶものが多いと考えるのです。

(文責：京都府同窓会「嬉谷会」)

# 京都大会を終えて

7期 教育基礎

光島 正豪

平成14年夏、京都府支部創立20周年記念の会に中洲前学長をお招きしての懇親会の席で同窓会京都大会の誘致の声があがった。それから3年の準備期間があつたものの実際に動き出したのは、山口大会から帰ってきてからだつた。あれほどに盛大に開催できるのだろうか、不安が頭をよぎった。

2期の拝師実行委員長を中心に体制をつくり、国際日本文化研究センター前所長の山折哲雄先生に記念講演のお願いをご快諾いただき、幸先のよいスタートをきることができた。記念誌の準備も始まったが、我々の課題は、多くの同窓生に京都に来ていただくことだった。何度も実行委員会でも検討した。

最終の実行委員会席上で吉田全国会長「参加者数は気にしなくてよい、京都支部活性化の契機になるように」の言葉に私の気持ちは楽になった。

大会には、全国から多数の参加があり、午前中、京都府支部の総会・研究発表を行い、京都担当の笹沙助教、喜多村助教からご講評を頂いた。

午後、全国同窓会総会に続き、梶田学長、京都府・市両教育長及び多数のご来賓のご臨席を頂き京都大会開会式を、更に山折先生から演題「宮沢賢治と斎藤宗次郎」で記念講演を頂いた。

翌日の巡検は「教育・科学・文化の京都発・日本初」をテーマとして、島津創業記念資料館、誓願寺、学校歴史博物館などの見学を行った。

今後、本大会の成果を生かし、京都支部が更に活性化し、魅力ある同窓会活動ができるように研鑽を重ねていきたい。今回、このような機会を与えていただいたことを、本部役員をはじめ、大学、また、多くの方々の御協力に感謝し、京都大会の報告としたい。

# 「京都大会に参加して」

5期 教育基礎

浜野 重治 しげじ

第25回兵庫教育大学大学院同窓会京都大会は、平成17年8月6日(土)、7日

(日)、ホテル「ルビノ京都堀川」で開催された。6日の午後は総会が、続いて京都大会開会式が行われ、実行大会委員長、拝師暢彦先生、続いて第六代学長、梶田徹一先生、府・市教育長の挨拶があつた。参加者は県外から十名余り、地元会員を入れると五十数名位であつたと思う。その後、前国際日本文化研究センター所長、山折哲雄先生による記念講演「宮沢賢治と斎藤宗次郎」があり、強く胸を打たれた。(別稿)

学長の祝辞の要点は三つであつたと思う。一つ目は、平成19年度に「専門職大学院」を設置し、4割程度、現場から受け入れる。二つ目は、平成16年6月から始まった「兵教ネット」の積極的参加と活用。これは、前学長が述べているように、大学の中期目標、計画の中心的な内容の一つであり、ネット

トを教育現場の課題を解決するために使う。具体的な方法については前号に詳しく書いてあり、あるいは、大学の「教育実践ネットワーク運営室」へ問い合わせること。三つ目は、現場からの「教育改革」を、ということであつた。

続いて立食パーティによる懇親会があつたが学長は所用で欠席された。たまたま小生が乾杯の音頭をとることになつた。そこで小生は次のように一言述べた。「今日、6日は広島原爆の六十周年にあたる。亡くなられた方の御冥福を祈るとともに、平和への誓いを新たにし、二度と過ちのないよう、さらに『平和教育』に力を入れよう」と。さて、その後は、いつものように二次会でスナックへ行つた。翌日は参加者は少なかつたが「巡検」があり、大変有益であつた。

京都の先生方、本当に有難うございました。

# 「21世紀の教育への提言Ⅱ 現場からの教育改革」

## —原稿募集のお知らせ—

平成12年第20回兵庫教育大学大学院同窓会(兵庫大会)総会で「教育現場からの教育改革」の提言集を刊行する議案が、承認されました。その後、兵庫教育大学大学院修了生による「教育現場からの教育改革」の提言集「21世紀の教育への提言集Ⅰ 現場からの教育改革」(明日の教育を考える会編)が、平成14年8月1日に出版されました。

「教育改革への提言」は中央教育審議会や教育研究者等によるものが見られませんが、学校現場からの提言のまとめはあまり見あたりません。同窓会では、「21世紀の教育への提言Ⅱ 現場からの教育改革」の冊子第2集を作成し広く配布する予定をたてています。

同窓会会員各位にあつては、なにとぞ趣旨をご理解いただき、ご提言を下記の要領でご寄稿いただきますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1 「21世紀の教育への提言Ⅱ 現場からの教育改革」の書式等について

用紙 A4判 縦置き2枚以内  
 題目 横書き  
 氏名 ○○○○ (□□系△△専攻○○期)  
 本文 横書き 40×40行

なお、原稿は、印刷物かフロッピーかE-mailで送付ください。

2 送付先 〒673-1421 兵庫県加東市山国2007-109  
 兵庫教育大学学校教育研究センター内 上西一郎宛  
 E-mail uenishi@ceser.hyogo-u.ac.jp

—文責 上西一郎(自然系理科教育5期)—

## 編集後記

第30号は、同窓会活動の核である「大学院同窓会全国大会の様子や感想」と教職員の資質向上のために「兵庫教育大学が果たしている、果たそうとしている教育改革」を核とし、役員名簿・支部活動等の報告や「現場からの教育改革」の原稿募集等で構成してみました。

今回より、会報担当が山口支部に代わりました。広報担当山下副会長さんのご支援も受けながら、勝野副学長さんをはじめ多くの方々から玉稿をいただき、お蔭様で本号を出すことができました。紙面をお借りして、関係各位に改めて厚くお礼申し上げます。

なお、会報に対するご意見・ご感想・ご提言、役員名簿の訂正等がございましたら、

メール (n-nishikawa@kvision.ne.jp) 等でご連絡いただくと幸甚に存じます。

7月29日・30日、岩手大会でお会いしましょう!!

(山口県支部広報部)



# 役員等名簿

自 平成17年6月1日～至 平成19年5月31日

役職名	氏名	ブロック名	各 県 評 議 員										
会 長	吉田 廣(兵庫)	近畿 ①	北海道	中村 保	富山	森山	義人	鳥取	安治	紘紀	鹿児島	村上	良典
副 会 長	研究部	小西 豊文(大阪)	近畿 ②	青森	佐藤 真一	石川	川畑	松晴	島根	岩田	進	沖繩	糸数 剛
	組織部	川合 康司(岐阜)	中部・東海	岩手	石亀 紀男	福井	杉田	和一	岡山	大久保 勉	神戸市	位上 孝之	
	総務部	塚崎 博行(兵庫)	近畿 ①	宮城	糟谷 文夫	山梨	梶原	正史	広島	林 保			
	会 事 業 部	岡本喜代治(奈良)	近畿 ③	秋田	石垣 隆孝	長野	原 俊朗	山根	山口	石川 芳己			
				山形	佐藤 晃	岐阜	中根 弘之	徳島	田村 明敏				
				福島	永嶋 啓一	静岡	岡 浮穴 學	香川	野島 悟				
	副 会 長	山下 裕(広島)	西中国・四国	茨城	吉田 重郎	愛知	鈴木 均	愛媛	清田 公典	西河 武			
栃木				大島 壽	三重	田中 勉	高知	川崎二三雄					
群馬				青木 雅夫	滋賀	田中 吉巳	福岡	佐賀 聡宏					
埼玉				松尾 鉄哉	京都	畑中 佳美	長崎	竹内チカ子					
副 会 長	北山 鎮道(岡山)	東中国・四国	千葉	柳生 和男	大阪	丸岡 幸一	熊本	八間川隆彦					
			東京	石井 清文	兵庫	久保 哲成	大分	有定 裕雅					
院生代表	高橋 司(M1)	院 生 協	神奈川	児玉 祥一	奈良	和田 光昭	大宮	柿木 衛護					
監 事	◎望月 茂(静岡)	石井 生慈(兵庫)	岡崎 弘(和歌山)	光島 正豪(京都)	中本 幸美(大阪)								
	早川 求(島根)	中根 弘之(岐阜)	福嶋 眞澄(大阪)	中園大三郎(大阪)	◎印は監事長								
各 ブ ロ ッ ク 代 表 者 氏 名	ブロック名	ブロック長	副ブロック長	担当部	各部担当者氏名 (理事)								
	東北・北海道地区	石亀 紀男(岩手)	今野 英二(宮城) 中村 保(北海道)		菅原 廣次(宮城) 西前 弘幸(岩手)								
	関 東 地 区	石井 清文(東京)	松尾 鉄城(埼玉) 大島 壽(栃木)		壺内 明(東京) 荒川 兼一(東京) 佐々木良一(埼玉)								
	中部・東海地区 (福井を含む)	◎牛田敏雄(三重) (◎印はブロック長)	寺田 道夫(岐阜)	組織部 (6名)	鈴木 均(愛知) 玉木 隆(岐阜) 牛田 敏雄(三重) 須山嘉七郎(静岡) 山田 日吉(岐阜) 勝俣 得男(静岡)								
	近 畿 地 区 ① (兵庫・京都・滋賀)	久保 哲成(兵庫)	田中 吉巳(滋賀) 光島 正豪(京都) 位上 孝之(神戸)	総務部 (5名)	森 一郎(兵庫) 大高 忠(兵庫) 田中 嘉明(兵庫) 畑中 佳美(京都) 松村 喬(滋賀)								
	近 畿 地 区 ② (大 阪)	阿比留喜久雄(大阪)	丸岡 幸一(大阪) 塩見 能和(大阪)	研究部 (5名)	村部 京子(大阪) 中尾 豊喜(大阪) 柴山 雅由(大阪) 菅野 恭介(兵庫) 阿比留喜久雄(大阪)								
	近 畿 地 区 ③ (奈良・和歌山・ 大阪含む)	岡崎 弘(和歌山)	和田 光昭(奈良) 川崎 寛(和歌山)	事業部 (5名)	浜野 重治(和歌山) 西端 幸信(和歌山) 伊井 直明(兵庫) 上西 一郎(兵庫) 田先 崇志(兵庫)								
	西 中 国 地 区 (山口・島根・広島)	西川 敏之(山口)	柿手 宣昭(広島)	広報部 (5名)	市川 博登(広島) 西川 敏之(山口) 久樂 信吾(山口) 藤原 尚幸(島根) 毛利 直巳(島根)								
	東中国四国地区 (岡山・鳥取・四国)	武 泰稔(岡山)	清田 公典(愛媛) 安治 紘紀(鳥取)	会計部 (3名)	大久保 勉(岡山) 安治 紘紀(鳥取) 清田 公典(愛媛)								
	九 州 地 区 (沖縄を含む)	川波 英一(福岡)	林 裕恭(宮崎) 村上 良典(鹿児島)		野中 純(長崎)								
参 与	武 泰稔	酒卷 成欣	塩瀬 昌雄	右藤 和弘									

# 第25回兵庫教育大学大学院同窓会・京都大会



第25回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（京都大会） 平成17年8月6日 於 ホテルルビノ京都堀川



▲総 会



▲懇 親 会

来年度は

岩手大会で

集おう

期日：平成18年7月29日(土)

～30日(日)

会場：サンセール盛岡

▶ 巡 検 (島津製作所)

